

消防庁国民保護・防災部
防災課応急対策室応急対策係長

谷神 善洋

災害対応最前線!

スケールの大きさ

某ドラマで「事件は会議室で起きてるんじゃない。現場で起きてるんだ!」という台詞を耳にしたことがあると思います。これは警察の話ですが、「事件」を「災害」に置き換えてもらうと消防にも当てはまってきます。我々消防庁の職員は「会議室」側の職員です。

消防庁では、平時には法律の整備や資機材の調達・配備などを行っております。そして緊急時、地域の消防力だけでは対処できないような災害においては、消防の広域応援である緊急消防援助隊のオペレーション等を行います。

冒頭の台詞は「会議室」側にはネガティブな台詞でしたが、人命救助を目的としたオペレーション業務は非常にスケールの大きい仕事であり、国の職員として働くことを実感しやすい職場だと思います。

オールジャパンとしての対応

消防庁で働く魅力の一つとしてオールジャパンで対応する仕事が多いことです。

東日本大震災時には、発災直後に消防庁危機管理センターに対策本部を設置し、全職員が災害対応にあたりました。また、総理官邸内の危機管理センターにも職員を派遣し、各省庁協力し、政府一体となって災害対応にあたりました。

さらには、被災地に入っただけの災害対応も行っております。

被災地の対策本部に入り現場の情報をいち早く消防庁に伝えたり、政府一体で災害対応する国の現地対策本部員として、関係省庁と連携して災害対応にあたりました。

普段は立ち入ることの無いような総理官邸内の危機管理センターで災害対応したことや、最前線の被災現場で災害対応したことは非常に貴重な経験にもなりました。

国のため、地方のための仕事

冒頭で、「現場」と「会議室」で立場の違いを記述しましたが、消防庁では、実際に現場で消火作業や救急救助活動を行っていた「現場」側の消防職員も勤務しており、現場の話聞きながら仕事をすることは刺激にもなります。

このように、立場が違えど、国の安全を守りたい、地域の安全を守りたいという方向性は同じですので、一緒になって働くことも楽しさの一つだと思います。今まで消防庁の話をしてきましたが、総務省も同様に、国・地方両方の立場を考えて仕事をしております。

私のように総務省採用で消防庁に勤務することもありますので、興味を持っていただけたら是非とも総務省に足を運んでみてください。

PROFILE

平成16年10月 総務省採用
自治行政局選挙部
政治資金課収支公開室

平成18年 4月 高知県総務部財政課

平成19年 4月 政策企画部
市町村振興課

平成20年 4月 地方公務員
災害補償基金補償課

平成22年 8月 現職

とある一週間

月曜日

今週から応担当番(輪番制により、月に1週程度当番となる)。勤務時間外にある基準以上の災害が発生すれば、直ちに消防庁に駆けつけます。

火曜日

ある災害に関する「関係省庁連絡会議」の開催案内が届く。被害状況や消防の活動状況を報告するための資料を作成し、室長と共に内閣府へ。

水曜日

勤務時間中に某県にて震度5弱の地震が発生!応急対策室の職員で県や消防本部へ情報収集。幸いにも負傷者はいませんでした。

木曜日

政府全体で実施される防災訓練の打ち合わせのため内閣府へ。訓練シナリオの作成を行う。

金曜日

東日本大震災の被害報の更新日。被災各県から届く被害情報を集約し、消防庁のホームページにアップ。

土・日曜日

当番のため、消防庁から30分圏内の場所で休日を通っている。某県にて震度5弱の地震が発生!すぐさま消防庁に駆けつけ情報収集。特に被害が無かったのは後には宿直に任せて2時間で対応終了。



消防庁内有志の野球チームでの一枚
(筆者前列左から2人目)